

令和3年度

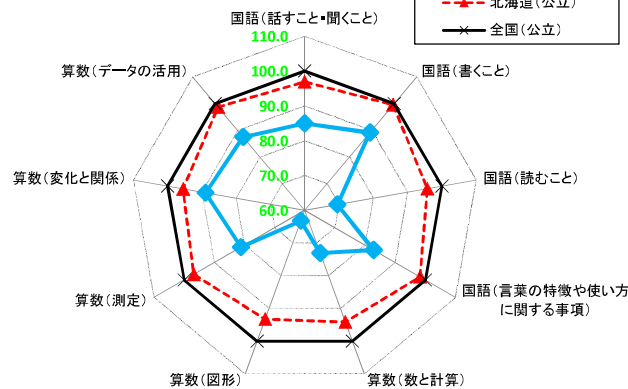
■美幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:123人）（中学校数:2校、生徒数:153人）

【教科全体の状況】

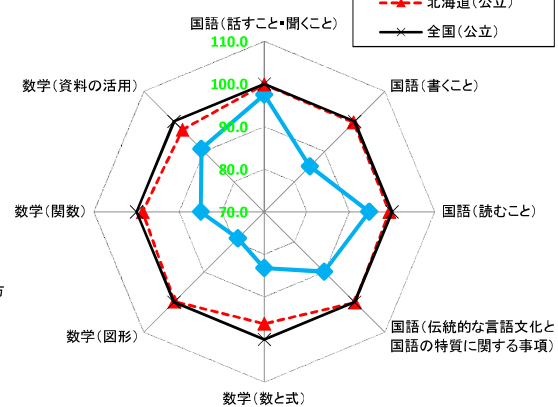
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	53	59
算数・数学	57	48

小学校

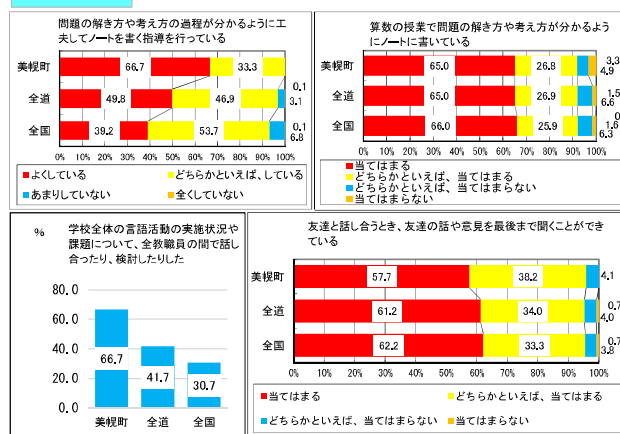


中学校

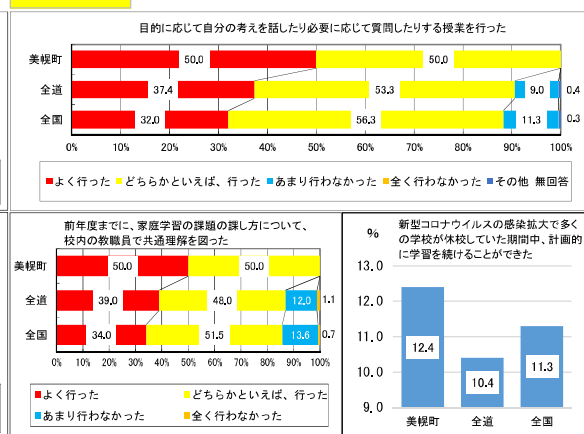


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったことにより、算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていると回答した児童の割合が、全国及び全道と同様になるとともに、算数では、「変化と関係」で全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。

町内の各小学校において、学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしたことにより、友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていると回答した児童の割合が、全国に近くなっていると考えられる。

中学校

目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語では、「話すこと・聞くこと」で全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。

前年度までに、家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図ったことにより、新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができたという回答した生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。

【美幌町の学力向上策】

- ◎ 家庭と連携した学習習慣の確立と望ましい生活習慣づくりの取組
- ◎ 家庭における学習習慣を確立するための「家庭学習の指標」の作成と積極的な活用
- ◎ 若手教職員の授業力・指導力向上に向けた研修交流会の実施
- ◎ 1人1台端末の「持ち帰り実証実験」の実施

令和4年度

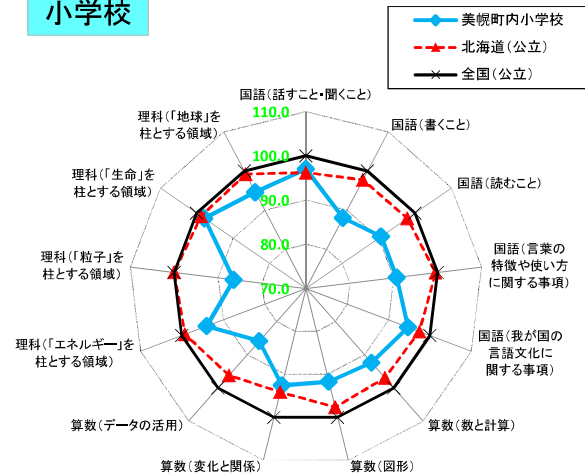
■美幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:130人）（中学校数:2校、生徒数:117人）

【教科全体の状況】

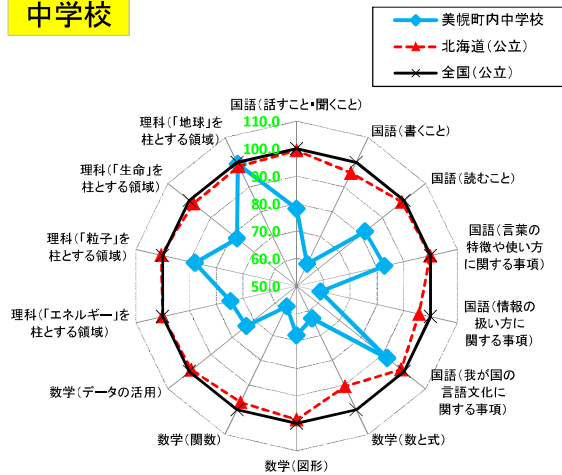
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	60	58
算数・数学	58	34
理科	59	42

小学校

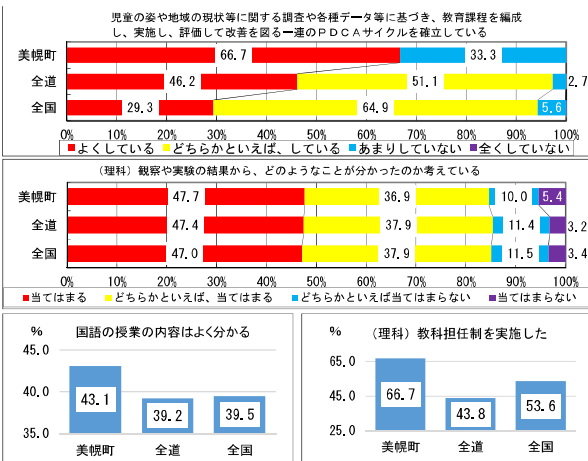


中学校

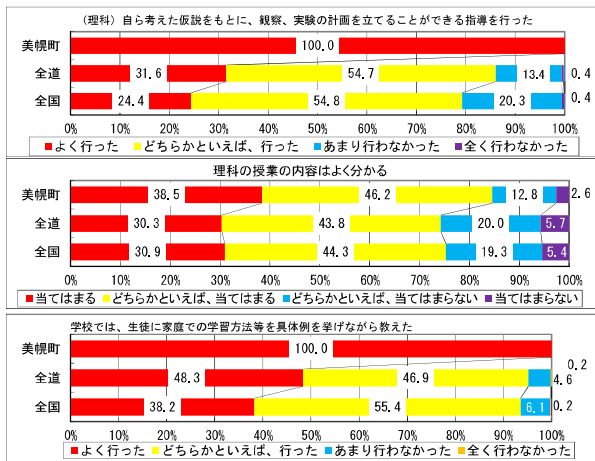


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づく一連のPDCAサイクルを確立していることにより、各学校において、課題となる教科や領域に重点を置いた授業改善が推進され、国語の授業の内容はよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均正答率に最も近づいたと考えられる。
理科の授業において教科担任制を実施したことにより、学習内容の理解が深まり、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのかを考える児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科では、「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率が最も近づいたと考えられる。

中学校
理科の授業において、自ら考えた仮説をもとに観察、実験の計画を立てることができる指導を行ったことにより、生徒が探究する力が高まり、理科の授業はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科では、「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率に最も近づいたと考えられる。
町において、「家庭学習の指標」の作成及び活用を進めるとともに、学校では、生徒に家庭学習の方法を具体例を挙げながら教えたことにより、個別最適な学びや、自らの課題解決のための家庭学習が推進され、国語では、「我が国の言語文化に関する事項」で全国の平均正答率に最も近づいたと考えられる。

【美幌町の学力向上策】

- ◎ 「読書の大切さ」を家庭に啓蒙するとともに、図書館と連携し「読書好き」な子を育成する取組
- ◎ 家庭における学習習慣を確立するための小中一貫した「家庭学習の指標」の作成と積極的な活用
- ◎ 若手・中堅教職員の授業力・指導力向上に向けたICTを活用した研修会や公開研究会の実施